

シリーズ—⑤ 巻頭 インタビュー— 金融経済教育を語る

大藪 千穂 氏

東海国立大学機構 岐阜大学
副学長／教育学部教授

●授業実践事例〈リアルボイス〉

家庭科

石田 実里 先生
埼玉県立三郷北高等学校教諭

公民科

別木 萌果 先生
東京都立小川高等学校教諭

●高校生向け金融教育副教材

「**明るい未来へTRY!**
～リスクと備え～」のご紹介



INFORMATION

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、
損害保険教育に関する情報を発信する

そんぽ学習ナビ を開設しています。

見やすく、分かりやすく、
ほしい情報が手軽に
入手できます



<https://www.sonpo.or.jp/education/>



損害保険教育情報誌「そんぽジャーナル」は、
そんぽ学習ナビ で「創刊号」から最新号
「第5号」までの全号をご覧いた
だけます。

<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>

一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	共栄火災海上保険株式会社	日新火災海上保険株式会社
アイベット損害保険株式会社	さくら損害保険株式会社	日本地震再保険株式会社
アクサ損害保険株式会社	ジェイアイ傷害火災保険株式会社	ベット&ファミリー損害保険株式会社
アニコム損害保険株式会社	セコム損害保険株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
イーデザイン損害保険株式会社	全管協れいわ損害保険株式会社	三井ダイレクト損害保険株式会社
AIG損害保険株式会社	ソニー損害保険株式会社	明治安田損害保険株式会社
エイチ・エス損害保険株式会社	損害保険ジャパン株式会社	株式会社ヤマップネイチャランス損害保険
SBI損害保険株式会社	SOMPOダイレクト損害保険株式会社	楽天損害保険株式会社
au損害保険株式会社	大同火災海上保険株式会社	レスキュー損害保険株式会社
株式会社NTTドコモ損害保険	東京海上日動火災保険株式会社	
キャピタル損害保険株式会社	トーア再保険株式会社	

2024年10月1日現在(会員会社31社50音順)

巻頭
インタビュー

金融経済教育を語る

金融に関する教育は、小・中・高校の家庭科や社会科で継続的に教えられてきましたが、2022年学習指導要領の改定で投資教育（資産形成）が加わり、金融経済教育は一躍話題となりました。今回は、岐阜大学教育学部の大藪千穂教授に、金融経済教育の必要性や課題などのお話を伺いました。



大藪 千穂氏

東海国立大学機構 岐阜大学 副学長／教育学部教授

●おおよぶ・ちほ
大阪市立大学生活科学大学院博士課程単位取得修了(学術博士)。1994年より岐阜大学教育学部助教授(家政教育講座)。現在、岐阜大学教育学部教授。2021年より副学長(多様性・人権・基金・広報・ブランディング・図書館担当)。日本消費者教育学会会長、生活経済学会副会長、第6期消費者庁消費者教育推進会議会長、消費者ネットワーク岐阜代表。

高校在学中が
金融経済教育をしっかりと
学ばせる最後のチャンス

義務教育は中学校までですが、ほとんどの生徒が高校へ進学しています。高校卒業後に進学す

る生徒もいれば、就職する生徒もいるので、高校在学中がきちんと金融経済教育ができる最後の砦だと考えています。また、成年年齢が18歳に引き下げられたので、高校3年生のうちにクレジットカードを作ることがで

金融経済教育を通して生徒には 生きぬく力・優先順位を付ける力を 身に付けてほしい

きますし、投資契約もできます。高校生の間に、契約や金融経済に関する基本的な知識を学んでもおかないと、将来、困ってしまう人がたくさん出てくると思います。そうしたことから、金融経済教育を高校で行うことは重要だと思います。

金融経済教育を実施する
上で重視するのは収支状
況・お金の動きを自分ごと
として把握すること

金融経済教育を実施する上で重要なポイントは、自分で収支の状況を把握できるようにすることです。私は主に大学1年生に「生活の経済」という授業を行っています。受講している学生のなかには、金融の仕組みや銀行の役割は知っていても、

《目次》

損害保険教育情報誌 **そんぽジャーナル**
第5号 February/2025

3 ページ

金融経済教育を語る

金融経済教育を通して生徒には
生きぬく力・優先順位を付ける力を
身に付けてほしい



東海国立大学機構 岐阜大学 副学長／教育学部教授
大藪 千穂氏

授業実践事例「リアルボイス」

高齢者への理解と連動して、社会保障制度などで
リスクに備えることの重要性も理解



埼玉県立三郷北高等学校教諭
石田 実里 先生
〈今回実践した授業プランのご紹介〉

8

公民科



身近なイベントから保険を
自分ごととして考える授業を実践
東京都立小川高等学校教諭
別木 萌果 先生
〈今回実践した授業プランのご紹介〉

10

明るい未来へTRY! リスクと備え



生徒用教材
「冊子」動画
教員の皆さま向け
「教員用ハンドブック」



12

INFORMATION

日本損害保険協会では、
教員の皆さまや一般の方々に向けて、
損害保険教育に関する情報を発信する
「そんぽ学習ナビ」を開設しています。

普通預金と定期預金の違いも知らない学生がいます。

学生たちは、親元を離れて一人暮らしをするようになって、仕送りとアルバイト代、奨学金の3つを合わせてやりくりするなかで初めて、これだけお金が必要なのだと気づきます。そうした背景もあり、まず金融の全体像ではなく、生活に必要なお金の管理の仕方から教えていくこととなります。

授業では、家計簿の書き方を教えたあと、実際に3か月間家計簿を付けてもらい、その内容を分析させます。そして、最終的に、収入とその内訳、支出、翌月はどうするかなどをまとめたレポートを提出させています。

これを行うことで、お金の動きを知ることができます。お金の入口は、給与所得などに限られていることが多いものの、出口となる決済手段は、クレジットカードや○○PAYなど、現金以外の多種多様なキャッシュレス決済手段があります。キャッシュレス決済の利便性と危険性を見極めるお金の教育も必要です。

子どものころから 自分の家の経済状況を 共有させる

中学生や高校生のときから、自分の家のお金に関心を持たせることも、金融経済教育を実施する上でとても大切だと思います。そもそも日本では、家庭内

でお金のことを話すのはタブー視されてきました。私はもともと家庭内でお金のことを話すべきだと考えています。家の経済状況を子どもに共有することが重要です。

授業では、学生たちに自分が大学4年生になるまでにかかった教育費と、習い事の月謝を全部足した合計額を計算させ、自分のアルバイト代の時給で割らせています。いままでにかかった教育費は、時給だと何年分の労働に当たるのだと分かると、学生たちは親に感謝しますよ。

親に対する教育も必要です。保護者のための金融経済教育も行っていますが、そこでは、小学生や中学生の子どもを持つ親

は、子どもに対してどのようにお金のことを教えたらいいか悩んでいるとの声をよく聞きます。親はもつと子どもに家庭の経済状況を知らせたり、家事に関わらせたりするべきです。家のことを知るのも、勉強のひとつですから。

優先順位付けする力と 価値判断力が 生きる力を育む

金融経済教育を通じて生徒に身に付けてほしいのは、生きる力です。情報を取捨選択してどうやって生きていくか、生きる力とは優先順位を付けられる力です。例えば、生きるためにはまず食費が必要などと、優先順位付けと価値判断ができるようにする。投資では特に商品内容やリスク、留意点などについて理解し、自ら投資可否や投資額を判断しなければなりませんし、損害保険では自身のリスクを把握してどの保険に加入すればよいのかを選択する力を付けなくてはなりません。そうした力を

Special Interview

巻頭 インタビュー



育むのが金融経済教育だと思っています。

授業時間の不足と 教員たちの知識の補充が 金融経済教育の課題

金融経済教育の実施にあたって大きな課題のひとつは、時間が足りないということです。高校の家庭科の単位数は家庭基礎

が2単位、家庭総合が4単位です。限りある時間のなかで衣食住、家族、高齢者、環境、金融経済のこともやらなくてはならない。家庭科は生活に関わるのと全般を扱うので、学ぶ内容はとても多いにもかかわらず、受験科目ではないので学習の優先順位はあまり高くないのが現状です。

また、家庭科だけに限らないのですが、先生たちが忙しすぎて新しいことを学ぶ時間がないことです。使っている教科書も必ずしも最新の情報が書いてあるわけではありません。家庭科では、金融経済教育が注目されているものの、どのように教えればよいか分からないという先生も多いです。

教員向けセミナーや 出張授業などで積極的に 知識を得るのもひとつの 方法

先生たちには金融経済教育に関心を持ってもらいたいです。苦手意識を持つている方が多いので、まず自分ごととして捉えてもらって、経験もしてほしいです。自分が経験したことは生徒に教えるやすいでしょう。実際に投資商品を買えとまでは言いませんが、金融商品を知ることや必要な損害保険は何かなど、実際に調べてみるのが大事だと思います。また、知識を付けるため、日本損害保険協会や生命保険文化センターなどが行っている教員向けセミナーに参加するのもひとつの方法です。

生徒に対しては金融機関などの講師を学校に招いての出前教室などもよいでしょう。セミナーや出前教室の講師の方は、経験豊富な方なので、先生方も知識を得るのに有効だと思います。

家庭科[家庭総合]

対応単元

高齢者との関わりと福祉、共生社会と福祉

目的

- 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。
- 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。

プランのポイント

- ▶ 高齢者への理解と連動して、その生活を支える制度をライフプラン全体として捉えられるようにした。

使用教材

- 『明るい未来へTRY!』（パワーポイント全体版）
- 動画
 - ・NHK 高校講座 家庭総合
 - ・YouTube厚生労働省チャンネル

学習の展開 ※前の授業で、生徒たちは認知症サポーター養成講座を受講している。

時間配当 (分)	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
導入 (5分)	① 認知症サポーター養成講座の振り返りを行う。	▶ 高齢者の生活や介護サービスの実態を認識させる。	【動画】NHK 高校講座 家庭総合
	② 高齢者や私たちの生活を支える制度が何かを知る。		
展開 (40分)	③ 介護保険制度を知る。 ・ 制度の仕組み ・ 地域包括ケアシステムの概要	▶ 介護保険制度を利用している高齢者の実態を動画から理解させる。 ▶ 予防のために地域が連携していることに目を向けさせる。 ▶ 認知症サポーター講師の仕事と関連付けることで身近なものであると感じさせる。	【動画】NHK 高校講座 家庭総合
	④ 社会保障制度を知る。 ・ 社会保険、社会福祉 ・ 保険の給付、負担の例	▶ 「3助」を通じた相互扶助で社会保障制度が成立していることを説明する。 ▶ 医療費領収書や給与明細書を通じて、保険が身近なものであることを認識させる。	【動画】NHK 高校講座 家庭総合 パワーポイント スライド23、26(Work)、公民科Work 1
	⑤ 年金保険制度について知る。 ・ 役割、意義	▶ 動画から年金保険の役割を考えさせ、高齢以外の年金保険から必要性を感じられるようにする。	パワーポイント スライド27 【動画】YouTube厚生労働省チャンネル
	⑥ 諸外国の社会保障制度と比較を行う。	▶ アメリカ、スウェーデンの社会保障支出と国民負担率のバランスから利点や課題を考えさせ、日本の社会保障制度の意義等の理解を深めさせる。	パワーポイント スライド38、公民科Work 3
まとめ (5分)	⑦ まとめ	▶ 社会保障制度を利活用するための納付義務や、知識を持つことの重要性を考えさせる。	パワーポイント 公民科Work 2



授業ではひとり1台の端末を使用し、ICTを積極的かつ効果的に活用している

振り返りのあとは、介護保険制度に関して、高齢者の視点から制度の仕組みを紹介していただきました。また、地域包括ケアシステムの仕組みも踏み込んで教えています。社会保障制度では社会保険、社会福祉、そのなかでも特に年金保険を取り上げています。年金保険は大人でも分かりにくいので、厚生労働省が配信している、生徒の興味を引きそうな動画を採用しました。ここでは社会保険制度や納税の意義、増税が単に嫌だというのではなく、国民の負担とサービスがリンクしていることを、生徒たちに理解させることがポイントだと考えています。

授業では動画やスライド、ワークなどを活用して生徒たちが飽きないような工夫をしています。生徒たちが身近に感じられる素材を選び、テンポよく進められるように組み合わせを考えて、順序立てをします。また、授業を行う際、心がけているの

は単元全体を通じてストーリー性を持たせることです。今回は実際に、介護サービスを利用している高齢者の動画を見せて、前回の認知症サポーターについての学びがつながるようにしました。特に最近では、身近に高齢者の姿を見ることがない生徒も多いです。動画で認知症の方や高齢者の日々の過ごし方を見せることで、ちょっとした気づきもあるようです。同時に、介護サービスの内容はどのようなものになっているのかを考える、授業への導入にもなっています。

知識を積み重ねたあとは、グループワークをして、生徒が考える時間を設けました。今回は「諸外国と日本の社会保障制度の比較」をグループワークのテーマとし、『明るい未来へTRY!』公民科用の「リスクに備える3つの助」を利用しました。生徒たちには、スウェーデン、日本、アメリカの社会保障制度の比較を見ながら、どの制度が良いと思うか話

し合わせました。ひとりだと自分の考えに偏ってしまいがちです。グループワークのよいところは、他者の意見を聞けることや、他者理解が深まることです。また、ICT端末を使って、グループ以外の人の意見も同時進行で見ることができるようになりました。ほかの生徒の考えを知ること、視野が広がったり意見の相違を考えたりするメリットもあります。私に問いかける生徒もいます。生徒に考えさせる問いは正解がないものが大半ですので、必要以上のことは言わないようにしています。

授業の「まとめ」では、リスクに備えるための知識として、民間保険にも触れました。民間保険の役割、仕組みは最低限の知識として伝えておく必要があると思います。リスクの発生を予想する、発生した場合の対処法や解決手段を選択する力を生徒たちに身に付けさせることが、なにより大事だと考えています。

高齢者への理解と連動して、社会保障制度などでリスクに備えることの重要性も理解

2年生の家庭総合の授業で、「明るい未来へTRY!」などを活用して授業を行った石田実里先生に、授業のポイント、工夫した点などを伺いました。



埼玉県立三郷北高等学校 教諭

石田 実里 先生

公民科[公共]

対応単元

社会保障制度

目的

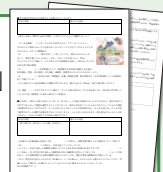
- 人生のリスクについて理解し、社会保障の意義について考える。
- ロールプレイを通して自分にどのような保険が必要か考える。

プランのポイント

- ▶ 修学旅行を題材に、自分にどのような保険が必要か考えるロールプレイを通して、保険を身近にとらえられるようにした。

使用教材

- 『明るい未来へTRY!』(冊子)
「公民科用」「やってみたいこと編」
- 授業プリント*
※授業プリントは別木先生が用意したオリジナル教材。



学習の展開

時間配当 (分)	学習内容と指導上のポイント		使用教材等							
	学習内容	ポイント								
導入 (5分)	● 将来自分が直面する人生最大のピンチがあるとしたらそれは何かを考えて隣の席の人と意見交換を行う。 ● 冊子を開き、人生のリスクについて確認する。	▶ 「大喜利です! 将来自分が直面する人生最大のピンチとは?」と生徒を惹きつけ、授業に興味を持たせる。	冊子 P.8～9 【プリント】							
展開 (40分)	● 日本の社会保障制度について理解する。	▶ 社会保障の4つの柱について説明する。	冊子 P.8～9 【プリント】							
	● もし自身が病気にかからない健康体だった場合、医療保険・年金保険に入るか入らないか考えさせ、それらの意義について考える。	▶ 現時点で病気にかかっていなくても将来のリスクを考える必要があることを強調する。	冊子 P.8～9、11 【プリント】							
	● 日本の年金保険制度の仕組みについて理解する。									
	● 修学旅行に関わる保険に入るかどうか、保険会社役と高校生役に分かれて、ロールプレイを行い、保険の意義について理解する。	▶ さまざまな保険があることを解説する。	冊子 P.11 【プリント】							
	■ 参考：授業内で生徒が実践したロールプレイのシナリオ <table><thead><tr><th>保険会社</th><th>高校生(自分)</th></tr></thead><tbody><tr><td>もし修学旅行先で病気になったときのために、修学旅行の期間だけ使える医療保険に入るのはいかがですか？ 沖縄でコロナとかになったら大変ですよ？</td><td>どうしようかな… 医療保険に (入る！・入らない！)</td></tr><tr><td>もし修学旅行先で病気になったら保護者の方に迎えにきてもらわないといけないのですが、その時に保護者の飛行機代を補償してくれる保険に入るのはいかがですか？ もしこれに入っていれば、飛行機代を最大15,000円分出してもらえます。この保険に入っていなければ保護者の飛行機代は100%自己負担です。ただ、保険に入ってもあなたが病気にならなければ払った保険料は戻ってきません。</td><td>どうしようかな… 保護者の飛行機代を 補償してくれる保険に (入る！・入らない！)</td></tr><tr><td>では、もしあなたが修学旅行で泊まるホテルで、ホテルの備品を壊してしまった時のための賠償責任保険に入るのはいかがですか？ 修学旅行ではしゃいでモノを壊してしまうかもしれません。</td><td>どうしようかな… 賠償責任保険に (入る！・入らない！)</td></tr></tbody></table>			保険会社	高校生(自分)	もし修学旅行先で病気になったときのために、修学旅行の期間だけ使える医療保険に入るのはいかがですか？ 沖縄でコロナとかになったら大変ですよ？	どうしようかな… 医療保険に (入る！・入らない！)	もし修学旅行先で病気になったら保護者の方に迎えにきてもらわないといけないのですが、その時に保護者の飛行機代を補償してくれる保険に入るのはいかがですか？ もしこれに入っていれば、飛行機代を最大15,000円分出してもらえます。この保険に入っていなければ保護者の飛行機代は100%自己負担です。ただ、保険に入ってもあなたが病気にならなければ払った保険料は戻ってきません。	どうしようかな… 保護者の飛行機代を 補償してくれる保険に (入る！・入らない！)	では、もしあなたが修学旅行で泊まるホテルで、ホテルの備品を壊してしまった時のための賠償責任保険に入るのはいかがですか？ 修学旅行ではしゃいでモノを壊してしまうかもしれません。
保険会社	高校生(自分)									
もし修学旅行先で病気になったときのために、修学旅行の期間だけ使える医療保険に入るのはいかがですか？ 沖縄でコロナとかになったら大変ですよ？	どうしようかな… 医療保険に (入る！・入らない！)									
もし修学旅行先で病気になったら保護者の方に迎えにきてもらわないといけないのですが、その時に保護者の飛行機代を補償してくれる保険に入るのはいかがですか？ もしこれに入っていれば、飛行機代を最大15,000円分出してもらえます。この保険に入っていなければ保護者の飛行機代は100%自己負担です。ただ、保険に入ってもあなたが病気にならなければ払った保険料は戻ってきません。	どうしようかな… 保護者の飛行機代を 補償してくれる保険に (入る！・入らない！)									
では、もしあなたが修学旅行で泊まるホテルで、ホテルの備品を壊してしまった時のための賠償責任保険に入るのはいかがですか？ 修学旅行ではしゃいでモノを壊してしまうかもしれません。	どうしようかな… 賠償責任保険に (入る！・入らない！)									
	● 自助型の社会か、共助公助型の社会か、それぞれのくらの割合の社会が望ましいか考える。	▶ 税金の使い道について関心を持つことの意義を伝える。	冊子 P.13 【プリント】							
	● 「やってみたいこと」のページに各自取り組み、自分の人生と保険のかかわりについて理解する。	▶ わからない問題があれば、それぞれ解説を行う。	冊子 P.18～26							
まとめ (5分)	● 授業の感想を書く。	▶ 自分の言葉でまとめさせる。								



ロールプレイング中の生徒たち。ロールプレイングはほかの単元でも頻繁に行われる

今回の授業では、『明るい未来へTRY!』の冊子を利用して、社会保障制度の単元の授業を組み立てました。「リスクと備え」というテーマを中心に据え、将来自分が直面する「人生最大のピンチ」とはなんだろう、という問いかけから授業を始めました。その際、「さあ、大喜利です!」と声をかけ、生徒たちが楽しくリスクについて考えられるような工夫をしました。生徒からは「仕事がなくなる」「家を追い出される」とか「結婚ができなくなる」などさまざまな意見が出てきました。一通り意見が出たあとは、『明るい未来へTRY!』公民科用のページを開かせ、今後の人生におけるリスクを確認させました。そのあと、人生におけるリスクをカバーしてくれる、社会保障制度の4つの柱「社会保障」「社会福祉」「公的扶助」「公衆衛生」を説明しました。その上で、「自助・共助・公助」という考え方があることを説明し、「自助」には民間保険が含まれていることなどを教えました。

生徒たちは日常生活で保険を身近に感じることはないと思いますので、例として、100人の村人が毎月各自5000円を出し合って、病気になってしまったときの治療費に備えるという設定で、「病気をしたことがない若いあなたは、5000円を払い続けるか?」という問題を投げかけました。「いつ病気になるかわからない」「将来何があるかわからない」などの意見が出て、多くの生徒が払い続けることを選択する結果となりました。

また、二人一組になって保険会社役と高校生役に分かれ、ロールプレイングをしました。修学旅行期間中だけ有効な医療保険や、ホテルの備品を壊したときに補償が受けられる保険など、保険会社役が補償内容を説明し、高校生役が実際にその保険に入るか入らないかを考えます。修学旅行という身近な例で、楽しみながら主体的に考える機会になったのではないかと思います。

民間保険とはどのようなものかを学んだあと、冊子に掲載されている「やってみたいこと」を各自に取り組みせました。人気だったのは「ひとり暮らし」と「海外旅行」でした。

授業の最後には、生徒たちに感想を書かせました。その中には「保険のことを全く知らなかった。知らないことを学ぶこともあったので、事前に調べることは大切だと思った」「保険は強制的に入るものと思っていたが、自分の意志で加入を決める保険があることを初めて知った」などの感想がありました。自分で「やってみたいこと」を選んで、それに伴うリスクやリスクへの備え方の知識を得て、自分ごとにしたのはよかったと思います。

生徒たちには、自己責任だから入らなくてもいい、あるいは自己責任だからこそ入った方がいいなど、迷う経験を繰り返しながら、最終的には、必要な備え方を主体的に決める力を育成できたらと思っています。

今回の授業を通して、保険に入るかどうかは、自分でよく考えて選択することが大事であるということが伝わればよいと思っています。

身近なイベントから保険を自分ごととして考える授業を実践

2年生の公共の授業で『明るい未来へTRY!』を利用した別木萌果先生に、授業で工夫したこと、生徒の民間保険に対する反応を伺いました。



東京都立小川高等学校
教諭
別木 萌果 先生

「明るい未来へTRY! ～リスクと備え～」の紹介

本教材は、家庭科、公民科の学習指導要領解説に沿って活用可能な教材です。授業内容にあわせて冊子や動画を
利用できます。また、教員の皆さま向けとして、教材活用の参考となる「教員用手引書」も用意しています。

教材の特徴

- 本教材は4つのテーマ() 家庭科利用 公民科利用 保険のキホン編 やってみたいこと編()で構成されています。
- どのテーマからでも始めることができ、授業内容にあわせて必要なテーマのみを学習することも可能です。
- 「家庭科利用」または「公民科利用」を学習し、さらに「保険のキホン編」「やってみたいこと編」と順に進めていくことで、保険の基本的な知識や損害保険について詳しく学習することができます。

家庭科利用

対応単元 家庭基礎、家庭総合の
経済計画とライフプラン

公民科利用

対応単元 公共の「社会保障の役割」

保険のキホン編

内容 保険の基本的な知識について

やってみたいこと編

内容 人生におけるリスクと損害保険について

ライフステージと各イベントで必要なお金の例をあげながら、自分の目標や夢を叶えるために必要なお金の準備の仕方や、不測の事態への備え方など、経済計画の組み立て方などについて学ぶ内容としています。

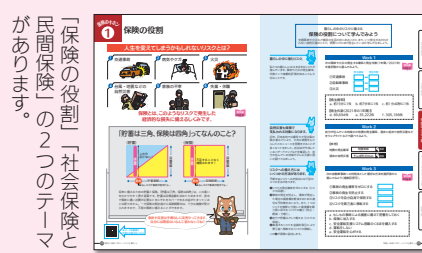
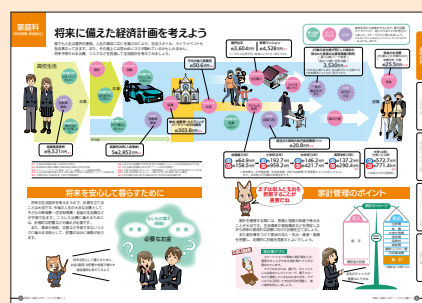
人生において起こりうるリスクの例をあげながら、共助・公助としての社会保障制度、自助としての保険、日本の社会保障制度の課題や自助・共助・公助の適切な組合せなどについて学ぶ内容としています。

保険とは、万が一リスクが生じてしまったときの経済的な損失に備えるためのものであること、さらに保険には「社会保険」と「民間保険」の2つがあることなどが学習できます。

生徒が「やってみたい」と思っている事柄に潜むリスクの例をもとに、それにより生じてしまった経済的な損失に備えるものとして「損害保険」が存在することを学習できます。

冊子

(A4サイズ/40ページ)

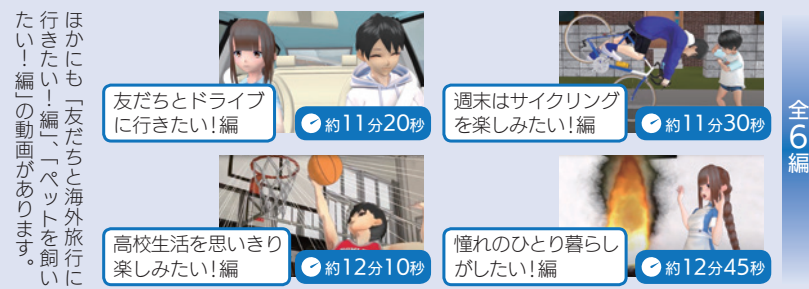
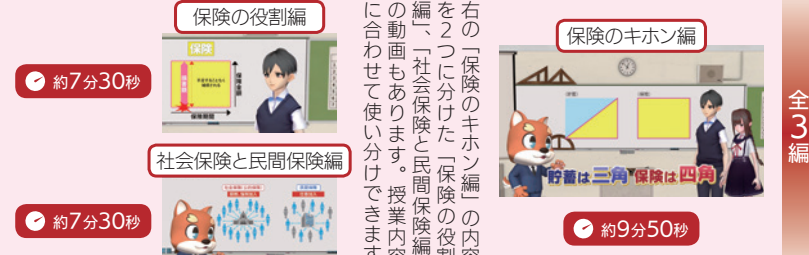
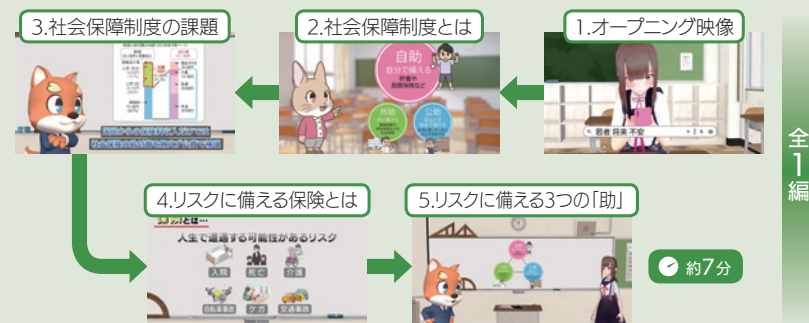
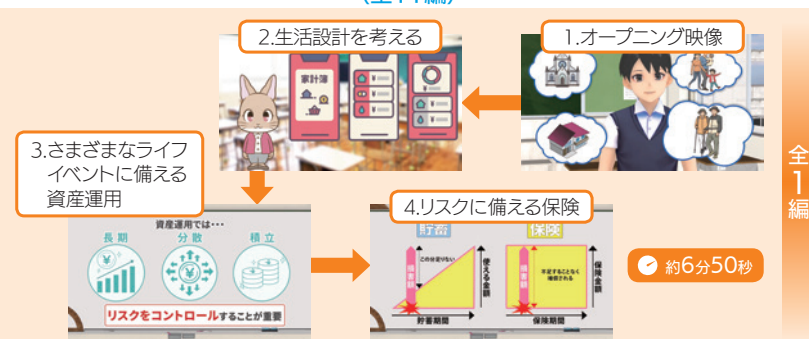


生徒用教材 (冊子と動画を用意しています)

動画

(全11編)

動画は冊子の内容をもとに作成しています。



教員の皆さま向け 教員用手引書

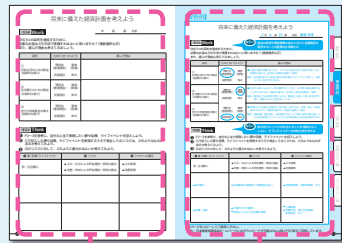
(A4サイズ/40ページ)



- 教員の皆さまが教材を使って授業を実施する際に参考となる情報を掲載しています。
- 各教科書の対応単元、生徒用冊子の各ページのポイントおよび補足資料、ワークシート
- 課題「Think」の解答例、授業展開例や授業での生徒への問いかけアイデア
- 実際の授業事例の紹介



各教科書の対応単元 各ページのポイントや補足資料



コピーして利用可能 「Think」の解答例なワークシート

各教材のダウンロードはこちらから!

ここで紹介した各教材は、日本損害保険協会ホームページ内「損害保険教育支援サイト そんぽ学習ナビ」-「高校生向け教材」に掲載されています。なお、掲載されているデザイン、内容については今後変更の可能性がありま



<https://www.sonpo.or.jp/education/high/>



自習時間や長期休暇中の教材として活用する冊子や動画などはすべて日本損害保険協会ホームページ内「そんぽ学習ナビ」から見ることができます。また、生徒自身が教材を見るだけでなく学習を進めることができるため、自習時や休暇中の課題としても活用できます。

グループワークでThinkを活用する家庭科利用・公民科利用にそれぞれ掲載されているThinkは、生活設計や社会保障制度などを理解した上でより深い考察を促す課題です。グループごとに課題を結果を発表しあうことで、課題を学習することができます。

ワークで理解度を確かめる冊子やパワーポイントなどに掲載されているワークは、主に選択式で答えることができる課題です。クイズ形式で進めたり、個人ワークとすることで、生徒の理解度を確かめることができます。

授業への関心を高めるために活用する冊子やパワーポイントには、身の回りのリスクや将来やってみようことなどに関連したイラストを掲載しており、再生時間の短い動画も多数用意しているため、授業への興味・関心を高めるのに活用できます。

教材の活用例



冊子教材「明るい未来へTRY! ～リスクと備え～」が、公益財団法人 消費者教育支援センターが実施している「消費者教育教材資料 2023」において優秀賞を受賞しました。